

(1) 読み聞かせ

保護者ボランティア等による読み聞かせ

新宿区立柏木小学校 編



実践事例	
1	実践した教科・領域等 : 授業時数外
2	対象学年 : 小学校 全学年
3	活用した書籍情報 : 児童の発達を考慮した絵本等
4	読書活動の実践の概要 : <p>本校では、1校時開始前にミニテストや課題学習、読書タイム等の時間を設けている。</p> <p>読書タイムの際には、児童があらかじめ図書を用意しておき、20分間の読書を行えるようにしているが、特に、6月と10月は「読書月間」として、全校で本に親しむ活動を推進している。</p> <p>読書月間には、保護者・地域等の「読み聞かせボランティア」及び各学級の担任以外の教職員（管理職、専科、養護教諭、主事、栄養士等）が、朝の読書タイムの時間に、1年生から6年生までの各学級及び特別支援学級に出かけ、それぞれが「読み聞かせ」を行っている。</p> <p>担任による読み聞かせは授業時間等に行うことができるが、担任以外の大人から様々な種類の本を読んでもらうのは、児童にとって新鮮な体験であり、新たな本との出会いが生まれるきっかけとなり、読書の幅が広がるとともに、楽しい一時となっている。</p> <p>その日の休み時間には、ボランティアの方が読んでくれた本を改めて自分で読んでいる様子なども見受けられ、読書意欲の向上にもつながっている。</p>
5	活動のポイント <p>読書月間には、図書委員会が全児童に「スタンプカード」を配布し、一定の冊数に達すると、図書委員会作成の「しおり」をプレゼントするなどの意欲喚起を図っている。</p> <p>この他、読書月間には図書推薦文の掲示や親子読書の呼びかけなども行っている。</p>
6	留意点 <p>保護者ボランティアを含め、毎週、様々な人が関わるので、各学級において読み聞かせした本を数年間分記録しておき、既読の本を選ばないように配慮している。</p>
7	連携した諸機関 <p>読み聞かせの際には、学校にある本だけでなく地域の区立図書館の蔵書も活用している。また、選書の相談にもものってもらっている。</p>